

第3回 蕨市将来ビジョン審議会 会議概要

■日 時 令和5年7月14日（金） 午前10時00分～11時30分

■場 所 中央公民館1階・集会室

■出席者 （敬称略）

委 員：林大樹（会長）、坪井真（副会長）、武下涼、宮下奈美、古川歩、本田てい子、前川やすえ、植田富美子、平田毅、上野寿一、長谷川浩司、岡本和子、木田麗花、笹渕敏子、島村幸子

事務局：阿部泰洋（総務部長）、佐藤則之（総務部政策企画室長）、島田雅也（総務部政策企画室主幹）、市川翔太（総務部政策企画室主査）、横山徹・佐久間萌（株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング）

■次 第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 前回の会議概要について（確認）
4. 議題
 - （1）将来構想について
 - ・新たな将来構想（骨子案）
 - （2）その他
5. 閉会

■内 容

【前回の会議概要について（確認）】

事務局から前回の会議概要について確認を行い、了承された。

【議題】

- （1）将来構想について

事務局から、将来構想の骨子案について説明した。（資料1参照）

○1. 目的と期間

副会長： 新たな将来構想の期間は10年間となっているが、社会状況の変化は当然あると思う。この期間の中で、中間評価やモニタリング等は予定されているか。

事務局： 新計画の体系は、将来構想、基本計画、実施計画の3層構造とすることを想

定している。将来構想は10年間、その下に基本計画（前期5年、後期5年）を定め、5年の中間期には社会状況の変化等に応じて計画の見直しを行うこととしている。また、毎年度の状況に応じて、実行計画を策定することを予定している。

○2. 目指すまちのビジョン

委員： 資料に示されているとおり、これまでまとめていただいたものからフレーズを検討していくことも大事だが、委員の皆さんがどんな蕨市にしたいかという意見から考えてもよいのではないかと思う。

会長： 第3次蕨市環境基本計画では、望ましい環境像として「みんなで未来へつなぐ 快適で持続可能なまち わらび～ 日本一のエコシティわらびへ～」と記載されている。これは環境分野に関するビジョンであるが、新ビジョンにおいては、市全体のビジョンとなるため、一言で表すのが難しいこともあるかもしれない。どの程度のフレーズを想定しているのか。

事務局： 現行の「コンパクトシティ蕨」将来ビジョンでは、まちの将来像を「安心とにぎわい みんなにあたたかい 日本一のコンパクトシティ蕨」としている。新ビジョンにおいても、フレーズの中に盛り込みたい要素はさまざまあるが、現行計画と同様に一つのフレーズで示していきたいと考えている。

○3. まちづくりの基本フレーム

委員： （2）都市形成において、5つの地区ごとのコミュニティ・センターが「地域らしさの核」として位置付けられているが、将来構想では、地区ごとのビジョンを示すことも想定しているのか。また、「塚越ビジョン」という言葉も聞くが、これはどのようなものか。

事務局： 将来構想においては、蕨市全体のビジョンを示すこととしており、地区ごとのビジョンを示すことは想定していない。なお、「塚越ビジョン」については、この度、新たな市長マニフェストに示されたものである。

○4. 分野別の目指す姿

<（1）安全で安心して暮らせるまち>

委員： 安全と安心は基本であり、とても大事だと思う。さらに高いレベルを目指し、強調してもよいのではないか。

副会長： 「自助、共助、公助」という視点は、引き続き重要な要素であると感じる。

<（2）豊かな個性を育み子どもたちの未来輝くまち>

委員： 蕨市は、ハード面においては、パソコンやタブレット端末等の整備がされて

いてよいと思う。一方、学ぶためのソフト面について、すでに取り組みられているとは思いますが、改善できることがあると思う。ハード面に加え、ソフト面を改善・強化することで、蕨のよさを出すことができると思う。

委員：今の時代、子どもとメディアの関わりは切り離せないものであり、目的を持ってメディアを使うという「健やかメディア」の考え方はとても重要である。引き続き取り組んでほしい。

< (3) みんなにათათかく健康で生活できるまち >

委員：市から健康診断のお知らせなど届くが、受診する人が限られている。蕨市は健康への取組を一生懸命しているが、市民の目があまりそこに向いていないのではないか。自分の健康は自分で管理するという意識付けを行う必要がある。

会長：健康診断などの制度が活用されていないということか。

委員：少ない負担で受診することができるのに、制度を知らない人が多いようだ。私が勤めている病院には、他市から通勤している従業員がいるが、みんな蕨市は制度が充実していると言っている。やはり市民の意識付けがされていないと感じる。

委員：今のお話は非常に重要で、制度を活用してもらうためにも、周りの声掛けがとても大切だということが分かる。先ほど意見があったように、共助のためのネットワークやコミュニティづくり、つながりによる周りへの働きかけなどが大事だと考える。蕨市の強みはコンパクトさを活かした取組である。

< (4) にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち >

副会長：先日、長野県で社会福祉協議会の皆さんと意見交換をする機会があり、今年の4月以降、外国人観光客の観光の質が変わったとのお話を伺った。長野県では、これまで温泉地をスポット的に観光する外国人が多かったが、今は中山道を歩いて、宿場町を巡り、地域ごとの特産品を自分たちで見つけて楽しむ人たちが増えているそうだ。蕨市も中山道本町通りには、江戸時代の様子がプレート（陶板）で記されているなど見どころも多い。こうした蕨市の宿場町をはじめとしたまちの特徴を外国人観光客にPRする機会があってもよいのではないかと思う。

委員：中山道（蕨宿）については、蕨市のブランドとして積極的に活用していくべきであり、商店街の支援と同時に進めていくことが重要だと考える。

委員：中山道の宿場町には全国協議会というものがあり、定期的に全国大会などの催しも開催され、蕨市の中山道（蕨宿）も連携を図っている。長野県と蕨市では観光の意味合いが異なるが、蕨市としての観光のあり方を検討していくことが大切であり、マイクロツーリズム（近場や地元で行う観光などを指す）の視点は参考になるだろう。これまで、蕨市は観光イコールお祭りであったが、こ

れからは新しい形でわがまちの観光のあり方を考えていくことが必要である。その意味で、この先10年間で行政が重点的に取り組む姿勢を示すためにも、タイトルに産業や観光という言葉を入れてもよいのではないか。また、商店街への支援については、昨今、企業数が激減していることから、事業承継などを含め「育てる」がキーワードであると考えます。

会 長： 参考資料の4ページの「中心市街地における空き店舗数」の推移を見ると、この間、空き店舗数は減ってきているが、これはどのように捉えるべきか。

委 員： 令和4年度は、空き店舗数が37か所となっているが、これは住宅や駐車場となったために空き店舗ではなくなったというのが実態である。

委 員： 観光事業として現在考えられている取組などがあれば伺いたい。

事務局： 観光事業については、にぎわいの交流拠点を中山道に整備することが新たな市長マニフェストに掲げられているほか、既に5月からは民間事業者と連携したシェアサイクル事業もスタートしている。また、4月には市の組織改正を行い、主に商業・観光振興を担当する「商工生活室」を「商工観光課」へと名称を変え、体制強化を図っているところである。この他、蕨市が舞台となった女子サッカー漫画・アニメ「さよなら私のクラマー」との連携事業として、アニメに登場する市内のスポットなどを巡りながら、ウォーキングを楽しめるような企画を行ったり、商店街と連携してキャラクターが登場するショップカードを配布し、市内の商店を周遊してもらう仕組みをつくったりと、さまざまな機会を捉えて取組を進めている。

< (5) 環境にやさしく快適で過ごしやすいまち >

委 員： 上・下水道の整備は、例えば、災害時に病院で透析治療を行う方がいる際にも安定して水を供給することができるなど、私たちの命に関わるとても重要なテーマである。市街地整備や道路整備の要素だけでなく、安全安心の要素にも絡むものであるため、新たな項目として示すことも考えられるのではないか。蕨市は他市よりも上・下水道の整備が進んでいるため、いっそうアピールしていくとよいと思う。

事務局： 項目を別立てし、新たに8項目とすることは難しいが、ご意見を踏まえ、文章化する過程でそうした要素も踏まえた表現を工夫していきたい。

< (6) 一人ひとりの心でつなぐ笑顔あふれるまち >

委 員： 市内には多くの、また、さまざまな状況の外国人が住んでおり、蕨市多文化共生指針も策定された。昨今、人権や平和、国際交流、多文化共生などにおいて色々な課題があり、一括りでは語れない問題となっている。ただ単に並べて書くだけでは不十分である。新たな計画は聞こえのよい理想ばかりでなく、地に足のついた具体的な計画にすべきと思う。また、今後、子育てや高齢者の支

援などさまざまな課題に対して、皆さんの知恵を集め考えながら取組を進めてもらいたい。

委員： うちの病院では、ヘルパーとしてフィリピンの方が働きに来ている。スマートフォンを使ってコミュニケーションをとっているが、言葉を覚えるには数年かかるだろう。そんな彼女たちに日本に来てよかったと思ってもらいたい。皆さんには、言葉が通じなくても、笑顔と声掛けで彼女たちのような方を応援してあげてほしいと思う。

委員： (6)のタイトルにある「心でつなぐ」とは、どのようなことを示しているのか伺いたい。

事務局： 地域のつながり、人とのつながりを表している。大事なのは一人ひとりの思いや気持ちだと考えていることから「心でつなぐ」という表現を使っている。

委員： 例えば、「一人ひとりがつながる笑顔あふれるまち」でもよいのではないか。市民意識調査では、家庭での災害の備えに関する設問について、「隣近所や地域のひとと協力方法を話し合っている」と回答した人は少なかった。コロナ禍もあり、なかなか協力できていないようだ。人と人がつながるには、一人ひとりの努力も必要で、何より経験の共有が大切だと考えている。また、この項目は他の分野にも関わりが深いため、強調していくことも必要だろう。

副会長： 「一人ひとりの心でつなぐ」は、現行計画と同様の表現で、人権教育などについて記載されているものであると私は理解している。ここでいう心とは、外国の方への差別や偏見、つまり権利を侵害するような人々の心の動き、これを専門用語で「社会心理現象」と言うが、そういった心の動きがあることを前提とした文言ではないかと推察する。外国の方に対しても同じ人間として接する「心」が大事であって、そうした考えが教育や生涯学習の場、地域において広まってほしいということが、この言葉を通じてイメージできるのではないだろうか。

< (7) 市民と市がともに力を発揮して創る自立したまち >

副会長： この項目は、現行計画の分野別計画では違う形で示されているが、今回変更した理由を伺いたい。

事務局： この項目は、行政側の体制的な要素が強いため、現行計画では、章を分けて記載していたが、分かりにくいので、今回はその点も含めて一体的に捉え、分野別のまちづくりに並べて示しているものである。

委員： 現行計画の策定後、協働の取組は活発に進められ、浸透してきていると感じる。わらびネットワークステーションのつながるバンクの登録者数も増えるなど、自分たちの団体だけではできないことを、行政や他の団体等と連携しながら進めていくことができるのは非常によいことだと思う。

委員： 特に成年式については、20歳を迎える新成人の皆さんが運営を担うなど、

素晴らしいと取組だと感じている。こうした機会や参加者が更に増えることで、市民の参画・協働の意識も醸成されていくのだろう。共感できる項目であり、コンパクトな蕨市だからこそできることだと思う。

<「4. 分野別の目指す姿」全体を通じて>

委員： 子どもの教育については、学校校舎の老朽化やトイレの洋式化などハード面の問題が出てくるなか、蕨の子どもたちのためにどのようにしていくか、教育の向かう方向性を盛り込む必要があるのではないか。また、従来、道路整備は、交通安全や景観等の観点に重点が置かれていたが、昨今の高齢化社会では、車椅子での通行がしやすいように歩道等の段差を減らすなど観点も変わってきており、道路整備は項目の（3）にも関連してくるものと思う。併せて、市立病院については建替えの方針が決まっているのであれば、その記載があってもよいのではないか。

事務局： 今回お示ししている資料は、これまでの審議会等のご意見を含めた市の考えであるが、ご指摘の点についてはまさに重要なものであると考えている。一方で、さまざまな要素を分野に分けるなかで、ある要素が別の分野にも関わるといようなことは多くあり、便宜的に分けざるを得ないことはご理解をいただきたいが、今後、文章化するなかで表現を検討したい。

○5. まちづくりの重点方向、その他全体を通じて

副会長： 資料1の最後のページの図式について、「4. 分野別の目指す姿」と「5. まちづくりの重点方向」がどのようにつながるか、視覚的に分かるようにしてみたいかがか。

委員： 重点方向のレベル感を明確にして具体化することが重要だろう。10年後の到達点を示し、わくわくするような未来が描ければよい。

会長： 重点方向なので到達点までは含まないが、方向を示すにしても、例えば10まで行くか、5までとするかを示すというようなことか。

委員： 将来構想は、市の大きなビジョンを示すものであり、さまざまな施策を進める上でも、人によって到達点や達成の定義に違いがあることから、この審議会の場で、到達レベル等を決めるのは難しいのではないか。また、まちづくりは、国の方針を受けて、市の方針が決まり、それが市民に届くなど、市で決めることができる範囲にも限りがあり、こうした点も含め、到達レベル等を絞るのは難しいのではないかと考える。

事務局： 将来構想では具体的なところまで示す想定はしていない。記述はある程度抽象的にならざるを得ないが、どういう言葉や要素を選んでいくか、今回のご意見等を踏まえ検討していきたい。いろいろなご意見がある中で、全てを盛り込むことは非常に難しいが、次回の審議会では、文章化した将来構想をお示しす

ることを予定しており、ご覧いただき、改めてご意見をお伺いしたい。

委員： 資料1の3ページの一番下のアミカケ部分の記載は何か。

事務局： 資料1の「2. 目指すまちのビジョン」に盛り込みたい要素である。

委員： 要素としては問題ない。記載に当たっては厳らしさを強めてもらいたい。

委員： 方向性としては、挙げられている項目に一番大事なことを盛り込んであるの
でよいと思う。

(2) その他について

事務局から、次回は8月4日に開催し、文章化した将来構想(素案)を示す予定で
あることを報告した。

【閉会】

以上